設楽（したら）の山々に子どもたちの歓声を！―廃校問題にとりくむ東栄町Project

東栄町は愛知県の東北、東は静岡県に接し、町の面積の91%が山林を占めています。昭和30－31年に1町5村が合併して誕生。当時の人口は14,300人。

50年後の現在は4500人余となっています。町には小学校が7校あり、学級数は27。児童数は150余人。1校あたりでは20人強、学年平均にすると、在学者は3人余となります。

小学校の歴史は古く、明治初期、学制発布まもなく開校して、100年の歴史を持つ学校もあります。明治末に建て替えられた校舎も残っています。一歩校舎に入ると、木造校舎独特のぬくもり、高い天井には落ち着きを感じさせます。左の写真は古戸小学校の80メートルの廊下。左側が教室です。

しかし児童数の減少に伴い、町では小学校の存続が困難と判断。最終的には1校のみを残し、他は閉校とすることになりました。そこで浮上したのが閉校となる小学校の活用問題。町では地域住民の方たちの声をもとに、廃校校舎の有効活用を探ることになったのです。

この呼びかけに応えて、昨年7月「東栄町廃校活用プロジェクト」が発足しました。プロジェクトには6名の学生が参加し、平野教職課程センター教授のもとで活用方法を研究することになりました。

学生が三度の東栄町現地調査

廃校プロジェクトは発足以降、これまで10ヶ月にわたって各地の活用事例の研究や東栄町での利用の可能性を調査してきました。

3度の現地域調査では、小学校の施設条件や周りの環境調査、町役場ヒアリング、地域の方たちのインタビューを敢行。それぞれの小学校で、豊かな自然体験活動を行うことが出来る条件を持っていることを確信しました。

校舎の周りは自然の学校。川のプールもあります。

学生チームは、そこから知多の子どもたちが東栄町の自然環境を生かして“山の学校”体験を行う小学校の活用を提案しました。また地域の方たちに協力していただき、食材を活かした新たな“食”の体験なども提案。

これに知多市の学童保育連絡協議会が応えて、現在、町役場、学童保育、プロジェクト間で利用料、利用方法、施設管理問題やシャワー室や寝室など条件整備対策を検討中です。

小学校の体育の授業風景

小学校で子どもたちがフリークライミング

「親子劇場」も参加？

子どもキャンプ活動を20年以上つづけている学生サークルの「あすなろキャンプの会」は東栄町プロジェクトの活動を知り、現在夏の主な活動としている常滑市の親子劇場のサマーキャンプを同町で行うために、実施プランを検討中です。子どもの自主性を大事にし、その力を引き出すことをねらいとした同会の活動は高く評価され、毎年夏休みのほとんどはキャンプ地で過ごすほど。町の木は杉ですが、あすなろもガンバレ！

あすなろキャンプの会の竹内君

3月20日、小学校区の区長さん、町会議員の方たちと懇談。

活用計画を説明する学生代表の榊原さん

3月20日、東栄町役場で開かれた住民懇談会には、活用予定地区の中野区長、中設楽学区の伊藤副区長、月学区の伊藤副区長、伊藤町議、山本助役、村上企画課長、教育委員会からは粟島氏が参加され、2時間にわたって懇談会を行いました。プロジェクト代表の平野社会福祉学部教授の挨拶に続いて、学生代表の榊原みゆきさんが廃校校舎の活用プランについて提案。

参加者からは、「想い出がいっぱい詰まった校舎を何とか残したい。」、「明日から授業のチャイムが聞こえなくなると思うとすごく寂しい」、「地元のことは地元の人間が一番知っている。利用計画にあたっては良く相談して欲しい」など、提案を受け止めて、さらに計画を具体化することになりました。